

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1171100314
法人名	有限会社 寿老会
事業所名	グループホームひだまりの家栗橋
所在地	349-1105 埼玉県北葛飾郡栗橋町小右衛門887-2 (電話) 0480-53-0770

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(平成19年11月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤5人, 非常勤5人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
または1日当たり 1,300円				

(4) 利用者の概要(11月8日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.5 歳	最低 49 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人幸仁会堀中病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、周囲に田園地帯が広がる住宅街の一角に位置し、ホームの敷地は広く、2階建ての一般住宅と同様の落ち着いた外観である。各居室や共用空間等も家庭的な雰囲気が漂っている。ホームの基本理念は、「つつがない日々の暮らし」であり、その理念を実現するための3つの目標を掲げ、管理者や職員は常に利用者との真摯に向き合いながら穏やかな笑顔と態度で介護している。日常生活は、一人ひとりの状態に応じ、利用者同士ホールでテレビを見ながら談話したり、ベランダのベンチで日光浴をしたり、庭で草いじりを楽しむこともできる。また、ホーム内をバリアフリーにするなど、利用者の状態に応じた介護態勢が整っている。今後、更に介護の質を向上させるとともに、地域に密着したホーム運営のための積極的な取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を受け、アセスメントによる個別具体的な介護計画作成や見直しに繋げている。また、事故報告体制についても、確実な通報・連絡網の体制が整備されている。なお、職員研修のあり方、職員が利用者をケアしながら一緒に食事すること、地域住民との交流が残された課題となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、自己評価を実施する意義及び各項目が求めている趣旨やポイントを職員と話し合ったが、十分な取り組みがないまま管理者段階での評価に留まっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、利用者・家族の代表を含むホームの関係者により組織され、既に第1回を開催した。会議では、ホームの運営状況や利用者の日常生活等を説明したが、出席者から出た幾つかの意見や要望を、運営や介護に反映させる検討を進めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームとしては、常日頃から積極的に家族の意向を取り入れ、家族会や家族訪問時の面談の際に意見や苦情等の申し出があれば、謙虚に耳を傾け、その解消に向け個別的に対応している。また、利用者の状態によって随時電話をしたり、四季ごとのホーム便りや手書きのミニ通信等の送付による返事の内容からも、家族の意図を汲み取って運営や処遇に活かすように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム近隣の住民との付き合いはほとんどなく、ゴミ出しなども回収業者に依頼し、特にホーム運営や利用者の生活上支障がないため、自治会等にも加入していない。しかし、そのために地域の実情が分からず地域社会から孤立している。また、地域住民の集まりや行事等への参加や、ボランティアの受け入れなども消極的である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念である「つつがない日々の暮らし」を実現するための目標の一つに「人との出会いやふれあいを深めること」があり、この目標の中に「地域住民との交流によって、その人らしい生活を支える地域密着型サービス」の考え方が含まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングの壁に理念とその目標を掲げてあり、職員会議での管理者からの理念に沿ったケアの具体的事例の説明などによって、理念の共有に努めている。また、新たに採用した職員に対してもホーム概況、利用者の状況等の説明とともに、理念とその実現に向けた目標について伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム近隣の住民との付き合いはほとんどなく、自治会等にも加入していない。また、地域住民の集まりや行事等への参加や、ボランティアの受け入れなども消極的である。		ホーム職員や利用者も地域社会の一員であるという認識をもって、自治会加入による地域活動への参加並びに老人会、趣味の会、各種行事等を通じた多くの人達との交流やボランティアの受け入れなどに積極的な取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の改善点のうち、アセスメントについては、個別・具体的な情報をアセスメント表にとりまとめて介護計画に繋げており、事故対応・報告の体制も、確実な通報・連絡及び事故報告書等が整備されている。なお、職員研修、利用者との一緒に食事並びに地域住民等との交流等が残された課題であり、かつ、今回の自己評価への取り組みも十分ではない。		前回の外部評価の課題で幾つかは見直されたが、未改善の課題の解決に努めてほしい。また、自己評価についても、評価の意義や評価結果の活用等について職員に説明して、全職員の参加のもと、自己評価の作成に取り組んでほしい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者・家族代表、地域住民代表、町担当者や地域包括支援センター職員が参加し、6月17日に第1回目を開催した。会議では、ホームから事業運営についての説明をし、利用者・家族及び職員から幾つかの要望・意見が出された。現在、それらをどのように運営やケアに活かすか検討を続けている。		

埼玉県 グループホームひだまりの家栗橋

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定調査票の入手等で町との接触はあっても、パンフレットやホーム便りを持って行くなどの広報活動や、ホームの運営実態及び、利用者の状況等現場の実情や課題等を話し合い、町の理解や協力を得るような連携には至っていない。		ホーム側からのパンフレットやホーム便りによる広報活動や、ホーム運営の実態及び利用者の状況等現場の実情や課題等を伝えたり、話し合ったりするような連携づくりが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	春・夏・秋・冬の年4回ホーム便りを発刊し、また、ミニ便りとして利用者の近況を時には写真を同封して送っている。金銭出納は、毎月、買い物等の領収書を添付して報告している。なお、心身の変化等緊急時には電話によってきめ細かく連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会で来所した際には職員が面談し、意見・要望等を聞いた場合は記録して、職員間で申し送り、管理者はその顛末を家族に連絡している。また、家族会も結成されており、年2、3回開催される会議での要望・意見等は、できる限り運営に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動の際には、利用者の状態、利用者との関係等を考慮して適宜対処している。また、退職後も時折元職員に利用者に見せてもらうようにするなど、様々なダメージ防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は、会社本部からの連絡によって職員に周知し、旅費・テキスト代は会社が負担しているが、研修日が職員の勤務日でなく休日に限られるため、出席しにくい状態にある。なお、研修受講者は、その結果を他の職員に報告することで研修内容を共有している。		介護の質を左右する職員の資質向上の研修は、事業者の全面的な責任により、勤務日において段階的、計画的に出席できるような勤務体制の見直しを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列会社、地域の同業者との事例検討会・勉強会等の交流は特になく、ネットワークへの参加もない状況にある。		地域の同業者と交流する機会を持ち、日々サービスや職員育成に役立てることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用予定者やその家族、関係者等と面談し、ホームでの生活状況を話したり、実際に見学して頂き、本人や家族の納得の上での入居に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、制服着用でなく思い思いの普段着を着用することで、職員と利用者という垣根を外し、また職員と利用者が一緒に家事をすることで、共に支え合う関係が築けている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、常に利用者の行動や言葉を聞いて、その裏に隠れた心の動きを見逃すことのないよう細心の注意を払って接している。特に、散歩やトイレ誘導の時にさり気なく話を聞き出して、利用者一人ひとりの希望や思いを把握し、その実現に向けて取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新たな利用者の場合、本人や家族との面談状況、関係機関からの資料提供による情報及び入居後一定期間の観察結果等をもとに、個別・具体的なアセスメント表を作成し、可能な限りの多くの職員による話し合いで介護計画を作成している。その内容は後日全職員が再確認するとともに、本人・家族に説明のうえ了解を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回定期的に介護計画を見直すこととし、期間内における本人・家族の要望、生活状況、医療・健康状態、介護の度合い、人間関係等の変化に対応するような計画内容となるように努めている。なお、急激に状況が変わったような場合は随時見直している。		

埼玉県 グループホームひだまりの家栗橋

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週2回看護師が勤務することで、利用者の身体的な状況を把握している。なお、地域に住む認知症高齢者の緊急の場合の受入れ態勢等も検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が入居前の医師からホームの協力医に変更する場合は、入居前のかかりつけ医に紹介状を書いてもらい、本人・家族とも主治医の変更に納得したうえで医療受診に繋げている。なお、主治医による診療は、月1回の往診によっているが、その受診結果については、そのつど家族に連絡している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における対応については、入居当初に、身元引受人(家族)、医師及び立会人(事業者)連名によるターミナルケア同意書を作成し、押印している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する誇りやプライバシーを損ねるような言動は見られなかったが、そのような兆しや心配がある時には、管理者が直接その職員に話をして指導したり、会議でも話し合って気を付けている。なお、個人情報にかかる会議録・ケース台帳等の記録類は必ずロッカーに保管し、パソコンのフロッピーも管理者が責任をもって適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの1日の生活の中で、自由にレクリエーションや外出ができる時間を確保し、また夕食後も自由に過ごし、就寝時間もできる限り各人のペースに任せている。		

埼玉県 グループホームひだまりの家栗橋

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、給食関係会社で作成する献立をもとに調理しており、食材も業者が搬入している。調理は職員が主に当たり、利用者は配下膳、食器洗い、テーブル拭きなどを行っている。時には、うなぎを食べたり、喫茶店に出かけたりしており、今後、パン食の導入も検討している。なお、職員は利用者の食事を見守っていることが多く、介助しながら一緒に食事をすることができていない。		現状の固定化した献立から、今後少なくとも週2～3回程度、利用者の好みや要望を取り入れた独自の献立によって、ホームが直接食材を購入し、調理できるような取り組みが期待される。また、職員も一緒に食事ができるような体制づくりが求められる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎週、月・木・土曜日の午後1時30分から3時30分の間に入浴して頂いている。男性は1人なので最後の入浴としている。なお、脱衣場や洗い場及びステンレス製の風呂も広く、快適な入浴を楽しむことができる設備となっている。		入浴日や時間帯を固定せず、朝風呂や夜間入浴等、本人のこれまでの生活習慣に合わせて入浴できるよう、職員ローテーションの工夫をされることを期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の意見や要望を聞いて、年間を通じ誕生会・敬老会・花見・運動会・納涼祭・クリスマス会・新年会等を開催している。実施する場合も職員がリードするのではなく、利用者にとって喜びや生き甲斐となるような働きかけをしている。日常生活面でも、職員のプログラム中心でない自主的な楽しみや気晴らしに向けた支援を心がけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に午後の時間帯に、スーパーへの買い物、会食、近くの「みゆき湖」までの散歩及びホーム周辺の散歩など様々な所へ連れ立って外出し、気分転換やストレス解消に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間19時から翌朝5時までは施錠しているが、それ以外の時間は施錠することの弊害を事業者、管理者、職員とも十分に理解し、鍵は掛けていない。なお、日中、職員は個々の利用者の外出したい雰囲気や言動をとらえ一緒に出かけた、他の方法で気分を逸らすなどの臨機な対応を心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時における事業者、職員への連絡網及び消防・警察署への通報表も見やすい箇所に掲げてあり、避難訓練も年4回の実施を計画しているが、まだ訓練等は実施されていない。		利用者の安全を保証する手段として、連絡や通報体制は整備されているが、今後、早急に消防署の立会・指導による消防設備・避難路の点検及び避難・消火訓練等を実施することが求められる。

埼玉県 グループホームひだまりの家栗橋

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者搬入の食材は、献立表にエネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物及び塩分が表示されており、主食である米や麺類を加えた栄養摂取量が適切かどうか、専門家による確認を予定している。なお、水分も適切な分量が確保されるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を始め食堂(リビング)、廊下、台所及びトイレなどの生活共同空間は家庭的な雰囲気があり、居室(2階和室・1階洋室)も落ち着いた造りとなっている。南側には広い庭があるので、物干しだけでなく、利用者が草花づくりを楽しむのに十分なスペースがある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム設置の家具以外、使い慣れたタンス、机、椅子及び調度品等が置かれ、中には、家族の写真、配偶者の位牌等も持ち込まれているなど、個人的な生活の場が確保されている。また、日当たりや見晴らしもよく、室内のカーテンや照明器具も部屋の雰囲気に合っている。		